



修学旅行を終えて

コロナ禍の中、実施時期の変更、目的地の変更と二転三転しながらも、たくさんの方々にお世話をいただき、何とか修学旅行を実施することができました。そして、感謝の思いを持ちながら、無事旅行を終えることができました。感染拡大防止に向けご準備をいただいた保護者の皆さま、お世話いただいた旅行会社の方々、関係者の皆さま、ほんとうにありがとうございました。

2 日間に短縮された旅となりましたが、いろいろな人との出会いが心に残る三重再発見の旅となりました。旅行に帯同いただいたカメラマンの高尾さんからは「気持ちよく仕事をさせていただきました」という言葉をいただき、一人一人の一つ先を読む行動や、いろいろなことを吸収しようとする姿に、3 年間の成長を実感した修学旅行となりました。

最初の出会いの場となった鳥羽水族館職員、清水さんによるセミナーでは、1200 種と日本一を誇る生物を飼育・展示する鳥羽水族館について、レクリエーションの場だけでなく、研究、教育、種の保存など水族館としての役割や、日本で唯一飼育されているジュゴンについてのお話等をしていただくことで、新たな視点を持って水族館を見学することができました。水族館では、「ジュゴンは数を認識できるか。」といった研究もされているそうです。

また、地元の漁師である前田さんの講話では、工業高校機械科を卒業し、東京での技能を生かした仕事や、京都での航空機や自動車部品を製造する鉄工所の経営、そして地元鳥羽での鉄工所の経営、漁師としての今の生活などについて語っていただきました。自身の興味や、好きなことが職業につながる。道はいくつもある。といった考えや、今の仕事を楽んでいる様子、鳥羽の海を愛する気持ちが伝わる講演でした。私たちの生活では、まだまだ実感としてとらえることができない地球温暖化の問題も、海水温の変化が漁師としての生活に直結しているということを教えていただきました。その後のジェルキャンドルづくりでも、材料の一つである海で拾ったシーグラス（海岸に流れ着いたガラスのかけら）について、流れ着いたガラスのかけらはキラキラしてとてもきれいだけど、もとは捨てられたゴミであるという講師の方の複雑な気持ちとともに、地元鳥羽の海を愛する、そして守るといった思いが伝わってきました。愛すべき自然、海がすぐそばにあるという生活が少しうらやましくも感じました。前田さんをはじめ、今回お世話になった海島遊民クラブの皆さんが、SDGs にある「海の豊かさを守る」という行動目標を共有しているということを知り、改めて私たちの今の生活を振り返る機会となりました。

1 日目の体験学習を終え、宿泊地となったちょっとおしゃれなホテルで、そして 2 日目のスペイン村では、友達との交流を深め、お互いの新たな一面や良さを発見する旅となりました。

修学旅行という大きな行事を終え、3 年生の皆さんにとって次は、進路実現に向けたそれぞれの挑戦です。皆さんに与えられた時間は、だれにとっても同じです。大切な時間を、目標とする進路を実現した自分の姿を想像しながら、確実に学習を積み重ねていってほしいと思います。

そしてこれからの学校生活の中でも、修学旅行で目標としたお互いの良さを見つけること、一つ先を読む行動をすることをぜひ続けていってほしいと思います。



↑鳥羽商工会議所での前田さんの講演の様子



↑ジェルキャンドルづくりに集中しています。出来上がった作品は文化祭で展示しました。



↑落ち着いた雰囲気のレストランで夕食をいただきました



↑朝見てびっくり、とても素敵なホテルでした

文化祭の中で

感染症の影響で、本年度の文化祭は、11月8日（月）～10日（水）に展示を中心に実施をしました。社会科や理科の夏休みの自由研究、美術の作品展示をはじめ、吹奏楽部、PC芸術部のビデオによる発表、図書委員による絵本の読み聞かせ（ビデオ）やおすすめ本のポップ等の展示、特別支援学級の生徒による都道府県紹介や光る墨字の展示、全校生徒で取り組んだモザイクアートの展示、そして1学期に作製した学級旗のコンテスト（タブレット端末を活用して投票）の他、9日には、1年生の学年行事として実施した東京パラリンピックで活躍したパラアスリートの前川楓さん（津市出身）を迎えての講演を、1年生は体育館で、2・3年生は各教室でZoomを活用して実施しました。

モザイクアートについては、3作品とも味のある出来栄となりました。改めて校舎内に掲示しますので、自分が担当したピースを探してみてください。学級旗コンテストの結果についても楽しみに。

そして、前川さんの講演では、中学校ではバスケットボールに熱中していた彼女が、3年生の夏の大会を前に交通事故に遭い、右大腿部を切断しなければならなくなったこと。そのことを出発点とした、いろいろな人との出会いや、陸上競技との出会い、障害を負った本人にしかわからない心の揺れや葛藤などについて語っていただきました。そして東京パラリンピックに向けたアスリートとしての挑戦の中で、自分でも気づかぬうちにプレッシャーに押しつぶされそうになっていた状況や、そうした厳しい状況の中でも、「悩んだときはやる」という前川さんのことばに、常に前向きな思いや生き方を感じ取ることができました。「一人一人のあたりまえが認め合えたら」「何かを好きな気持ちを大切に。好きは自分の宝物」「たくさん挑戦して、たくさん経験する」「感謝、思いやりを大切に」「人生一度きり」「だれかの役に立てた瞬間が一番うれしい」などなど、彼女のまっすぐな思いが伝わる講演でした。「反省はいっぱいしたけど、後悔はしていない」と言い切る前川さんのようには強くなれない。前向きになれないという人もいるかもわかりません。前川さん自身も「後悔はしたくない」と自分に言い聞かせ、今を楽しみながら、挑戦を続けているのだと思います。

後悔からは何も生まれません。時間を巻き戻すことはできないのです。それより、反省からは未来が生まれると信じ、失敗しても、もう1回だけ挑戦してみる。そんな繰り返しは成功への近道なのかもわかりません。言い古されたことばですが「失敗は成功の基」なのです。

12月の主な行事予定です

- 4日（土）・5日（日） 図工・美術展
- 8日（水）～10日（金） 3年保護者懇談会
- 14日（火） 小中合同人権集会
- 16日（木） 大掃除
- 20日（月） 給食終了
- 20日（月）～22日（水） 1～3年保護者懇談会
- 23日（木） 終業式
- 24日（金）～ 冬季休業日



↑モザイクアートの作品です



↑一番と思う学級旗をタブレットで投票しました



↑前川楓さんによる講演の様子



↑前川さんにサインをいただきました

文部科学大臣メッセージ「児童虐待の根絶に向けて～地域全体で子どもたちを見守り育てるために～」

平成16年度から毎年11月を「児童虐待防止推進月間」と位置づけ、児童虐待防止のための集中的な広報・啓発活動が行われています。

このほど文部科学大臣から児童虐待の根絶に向けたメッセージが発信されましたので、下記のQRコードから、ぜひご覧ください。



←保護者・地域の方へ

全国の子どもたちへ

